

第2学年C組 音楽科学習指導案

1 題材名 パートの役割を理解して合唱しよう（3時間）

教材名 表現（歌唱）「翼をください」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A表現 (1) 歌唱 ア、イ(ア)、ウ(イ)

[共通事項] (1) ア 音楽を形づくっている要素：テクスチャ、構成

・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：テクスチャ

(1) 題材観

本題材は、曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、各声部の役割や、パートの重なり方などの音楽の特徴を捉え、歌唱表現を創意工夫し、表現する力を身に付けることをねらいとしている。

10月に行われた合唱コンクールの取組を継続した表現の活動を中心とし、感じ取ったことをどのように表現したらよいか考え、曲にふさわしい音楽表現をする喜びや、思いを人に伝える演奏を創り上げる楽しさを味わわせていきたい。

(2) 指導観

＜教材について＞

「翼をください」は、1971年に発表された日本のフォークソングを代表する曲の一つである。フォークグループ「赤い鳥」が歌って大ヒットし、今なお幅広い世代に愛されている。この曲を混声三部合唱に編曲されたものを教材として扱う。曲が進むにつれて、**A**斉唱→**B**混声二部合唱→**C**混声三部合唱と、しだいにパートが増えていくように編曲されている。また、

・ピアノ伴奏の形：**A**4分音符の和音（右手のみ）→**B**右手の4分音符に左手が加わる→**C**リズムが大きく変化

・パートの重なり方：**A**ユニゾン→**B**主旋律とオブリガート→**C**主旋律とハーモニーをつくる旋律と構成がわかりやすく、それぞれの部分の音楽の特徴を感じ取りながら、音楽表現を創意工夫することができる。また、小学校6年生の教科書でも取り上げられている曲ということもあり、小学校からのつながりをもって練習に取り組むことが可能である。

合唱コンクールでは、森山至孝作詞、作曲の「だれのものでもない今を」を合唱した。楽曲の構成がユニゾンから始まり、二部合唱、混声三部合唱へと展開していくことや、4分の4拍子であることといった共通点があるため、合唱コンクールでの学びを今回の授業にも生かしていきたい。

合唱は歌うことの大切さや心地よさを味わうことのできる身近な歌唱活動である。本教材を通して、混声合唱の楽しさや美しさを味わい、級友との関わりの中で、声を合わせる喜びや、みんなで音楽をつくりあげる楽しさを体験させ、今後の意欲的な取組へとつなげていきたい。

<研究の視点との関わり>

【視点1】〔共通事項〕を支えにした、9年間の学びの連続性を考えた授業づくり

①学び方の共有

本題材では、「翼をください」（混声三部合唱）を教材に、各声部の役割や、パートの重なり方などの音楽の特徴を捉え、歌唱表現を創意工夫し、表現する力を身に付けることをねらいとしている。小学校では、器楽の教材である「ラバースコンチェルト」において、「主な旋律」「飾りの旋律」「和音」「低音」それぞれのパート役割と楽器の音色を生かして合奏している。また、「翼をください」（二部合唱）も教科書に掲載されており、歌唱している。小学校で歌った「翼をください」と比較して感じたことを話し合いながら、中学校では曲にふさわしい表現をどのように工夫していくかを考え、歌い試していくことが可能であろう。

先月の市教研（10月例会）において、小学校から中学校への系統的な学び方を身に付けるために、中学校の教科書に記載されている「パートの役割と重なり方」の表を基にワークシートを作成し、授業を実践されていた。中学校では、教科書に掲載されている表から、「工夫したいこと」や「友だちと共有した考え」などの枠を広げ、発言内容とあわせて個々の思いを見取ることができるようにしていく。ワークシートを用いて、表現の工夫（どのように歌いたいかな）を考える活動や楽曲分析については、「夏の思い出」や合唱コンクールの楽曲においても同様の活動を行ってきたので、その経験を活かして活動をさせていきたい。

【視点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

合唱の活動においては、パートの役割や音の重なり方などの音楽の特徴を生かした表現や、楽曲の雰囲気を感じ取って表現を工夫する学習を充実させていきたいと考える。個別最適な学びとして、まず、個々の思いをもたせた後、パートごとの話し合い活動を通して、楽曲から感じ取ったことを、〔共通事項〕（本題材で扱う、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は「テクスチュア」とする。生徒が活動する際に、各声部の関わり合いについて、「強弱」や「音色」を手がかりとしながら思考し、テクスチュアに結び付けていくようにする。）を根拠に自分の言葉で伝え合い、共通理解したことを表現につなげていく。これらの学習を今後も定着させていきたいと考えている。

また、自分の思いを表現するために必要な技能を身に付けるために、パートごとに歌い合わせる時間を確保し、それぞれのパートの旋律を、自信をもって歌うことができるようにする。そこから、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせ、各声部の役割や、パートの重なり方などの音楽の特徴を捉えられるようにする。

歌い試す場面では、各パート3～4人、計10人程度のグループを3グループ編成し、活動を行う。その際、ギガタブを活用し、何度も歌い試しができるように、あらかじめ、伴奏に各パートの旋律を録音したものを7種類ギガタブに用意し、必要に応じて使用する音源を選択することができるようにする。（①[A]「伴奏・主旋律」、②[B]「伴奏・女声の旋律」、③[B]「伴奏・男声の旋律」、④[C]「伴奏・ソプラノの旋律」、⑤[C]「伴奏・アルトの旋律」、⑥[C]「伴奏・男声の旋律」、⑦「伴奏（カラピアノ）」）また、ギガタブで歌声を録音し、自分たちの歌声を客観的に鑑賞することで、相手に伝わるように表現ができているか、話し合い活動の内容が生かされた歌い方ができているかを考えられるようにしていく。

活動の際は、いきなり楽曲の全てについて考えるのではなく、【**A**ユニゾン→**B**主旋律とオブリガート→**C**主旋律とハーモニーをつくる旋律】と曲が構成されていることに着目し、**A**・**B**・**C**それぞれの部分に視点を絞ってグループ活動を行う。それぞれの部分の音楽の特徴から、歌い方を考え、全体で共有しながら、より良い歌唱表現を求めて歌い試していくことを大切にしたい。

【視点3】評価の在り方

合唱の表現活動において、次のことを大切にしていき、他の題材や活動の中でも生かしていけるようにしたいと考えている。

- ・個々に感じ取った楽曲の雰囲気大切にしながら、〔共通事項〕を根拠に「どのように表現したか」を、相手に伝えることができること。
- ・表現するために必要な技能を、基礎・基本の力として定着させること。

音楽の特徴に気付き、どのように歌うかについて思いや意図をもっているかどうかについては、授業中の発言内容やワークシートを使って評価を行う。ワークシートの「工夫したいこと」や「友だちと共有した考え」などの記述から、発言内容とあわせて個々の思いを見取っていく。曲の構成については、全体で共有し理解を深めさせたい。

本時は、パートでの意見共有や、グループでの話し合い活動を行う。グループ活動の際には、ギガタブで歌声を録音し、自分たちの歌声を客観的に鑑賞することで、話し合いの内容が生かされた歌い方ができているかを考える場面を設定する。これらのグループ活動の様子を観察し、よりよい歌唱表現を求めて歌い試す姿を見取りたい。また、授業のまとめや振り返りから、楽曲に対する思いや、楽曲の表現が学習の前後でどう変容したかを見取りたい。

3 題材の目標

- 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)
- 「翼をください」のパートの重なり方などのテクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。(思考力・判断力・表現力等)
- 「翼をください」の各声部の役割や、パートの重なり方などの音楽の特徴を生かして合唱することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。

(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 技 全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。	「翼をください」のパートの重なり方などのテクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	「翼をください」の各声部の役割や、パートの重なり方などの音楽の特徴を生かして合唱することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画及び評価計画（3時間扱い）（本時 2 / 3）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す生徒の姿　【視点】	評価規準 （評価方法）		
				知技	思	態
◎曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりや、各声部の役割、パートの重なり方などの音楽の特徴を生かして合唱することについて興味をもつ。				↓ 知 （記述・発言） ↓ 技 （観察・聴取） ↓		
	第1時	○歌詞の内容や曲想に関心をもつ。 ・楽曲の印象などを話し合い、歌詞の表す情景や心情、雰囲気に関心をもつ。 ○自分のパートを歌う（歌詞唱）。 ・それぞれのパートにわかれ旋律を覚え、全体で合わせる。 ○歌詞の内容や音楽の構造の特徴を捉え、曲想との関わりについて理解する。	○歌詞や教科書を提示したり、小学校と中学校の「翼をください」の違いについて話し合ったりしながら、小学校の学習を想起させる。 ○発声、身体の使い方などに気を付けて歌唱するように助言し、それぞれの旋律を、自信をもって歌えるようパートごとに指導する。 ○パートごとに歌わせたり、音源を聴かせたりしながら表にまとめていき各声部の役割、パートの重なり方、強弱、伴奏の形など、音楽の特徴について理解できるようにする。 【視点1】			
第一次		・パートごとに歌ったり、CDを聴いたりして、 A 、 B 、 C それぞれの部分の各声部の役割、パートの重なり方、強弱、伴奏の形などの音楽の特徴について気付いたことを表にまとめる。 ☆〔テクスチュア、構成〕 ・学級全体で意見を共有し、音楽の特徴について理解を深める。	・各声部の役割、パートの重なり方、強弱、伴奏の形などについて、気付いたことや感じたことを、ワークシートに記入する。			

◎音楽の特徴を捉え、どのように歌うかについて思いや意図をもつとともに、各声部の声を聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けて合唱する。						
第二次	第2時 (本時)	○前時の復習をする。 ・「翼をください」を全員で合唱する。 ・前時に確認した音楽の特徴をまとめた表を再確認する。 ○Bにふさわしい表現の仕方（歌い方）について考え全体で共有する。 ・歌い方を工夫したい点について、個人で考えた後グループで共有する。 ○それぞれが考えた曲にふさわしい表現の仕方（歌い方）をグループで歌い試す。 ・パートに分かれて「工夫したい点」で出てきた考えを歌い試す。 ・ギガタブで録音する。 ・録音した歌声を聴き、グループで意見を共有して、さらに歌い試す。 ○全体で合唱をする。 ・全体で話し合ったり歌い試したりして表現を工夫する。 ・録音を聴き、学習前後の表現の違いを感じ取る。 ☆【テクスチュア】 ○本時の振り返りをする。	○前時のワークシートを参考にし、特に本時に関わりのある内容を生徒から引き出しながら確認することで、見通しをもたせる。 ○前時にワークシートに記入した、音楽の特徴について気付いたことを生かして考えるように伝える。 【視点1】 ○グループの歌声をギガタブに録音し、客観的に聴くことで、相手に伝わるように表現ができているか、話し合い活動の内容が生かされた歌い方ができているかを考えさせるようにする。 【視点2】 ○録音を聴き、学習前後での表現の違いを感じ取らせることで、他者と合わせて歌うよさや必要性を感じられるようにする。 ・各声部の役割やパートの重なり方を感じて歌う意味やよさを理解し、歌唱で表している。 ・学習で感じたことや次への課題を、振り返りカードに記入する。		(記述・発言・聴取)	
	第3時	○前時の復習をする。 ・前時に学習したBの歌い方を意識しながら、「翼をください」を全員で合唱する。 ・音楽の特徴をまとめた表を再確認する。 ☆【テクスチュア、構成】 ○A Cについて、ふさわしい表現の仕方（歌い方）を共有し、グループで歌い試す。 ○各声部の役割と全体の響きとの関わりを意識し、楽曲を通して歌う。 ☆【テクスチュア】 ○題材を通して振り返りをする。	○前時にワークシートに記入した、音楽の特徴について気付いたことを生かして考えるように伝える。 ○グループの歌声をギガタブに録音し、客観的に聴くことで、相手に伝わるように表現ができているか、話し合い活動の内容が生かされた歌い方ができているかを考えさせるようにする。 【視点2】 ・各声部の役割や、パートの重なり方などの音楽の特徴を生かして合唱し他者と合わせて歌うよさや必要性を味わいながら歌唱で表現している。 【視点3】		(記述・観察・聴取)	

6 本時の指導(2/3)

(1) 本時の目標

各声部の役割や、パートの重なり方などの音楽の特徴を生かし、曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。

(2) 本時の展開

学習内容 ・ 学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す生徒の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】
1 常時活動を行う。 - 校歌を斉唱し、歌唱に取り組むための雰囲気をつくる。 2 前時までの復習をし、「翼をください」を合唱する。 - ワークシートに記入した内容を確認する。 - 前時に記入したプリントの内容（音楽の特徴）について、共有しながら歌う。 ☆〔テクスチュア、構成〕 3 本時の目標を知る。	○前向きな声かけをすることで、授業に意欲的に取り組むために雰囲気をつくる。 ○前時のワークシートを参考にし、特に本時に関わりのある内容を生徒から引き出しながら確認し、見通しをもたせる。 ○発声、身体の使い方などに気を付けて歌唱させ、それぞれのパートの旋律を歌うことができているかどうか確認する。 それぞれのパートの旋律を、自信をもって歌っている。 ○録音をしておくことで、学習前後の変容がわかるようにする。
声部の役割やパートの重なり方を生かし、表現を工夫して歌おう。	
4 〔B〕の工夫したい点を記入する。（個人） - 自分の意見の部分に考えを記入する。 《予想される生徒の考え》 - 他のパートにつられないように歌う。 - 男声が主旋律になるので、自信をもって歌う。 - 言葉の発音に気を付けて歌う。 - mf なので、少し強く歌う。 「翼」という歌詞のイメージをもって、のびのびと歌う。 5 〔B〕の工夫したい点について、パートごとに意見交換をする。 - パートごとに、どのように歌うか（工夫したい点）について意見交換をしながら、「友達の意見」の部分に記入する。	○前時にワークシートに記入したことを生かして〔B〕の部分に注目し、考えることを伝える。 【視点1】 ○各パートの話合い活動の中で、自分の書いた意見を発表するように、グループをまわりながら伝える。

《予想される生徒の考え》

- ・男声が主旋律になるので、自信をもって歌う。
- ・女声だけで歌うオブリガートは、やわらかく歌う。弱くなりすぎないようにする。
- ・男声の主旋律をよく聴いて、やわらかく歌う。
- ・**C**に向かってクレシェンドがあるので、合唱コンクールでの練習を生かして、みんなでだんだん強くなるように歌う。
- ・「翼」という歌詞のイメージが、伝わるように、大きな声でのびのびと歌う。

6 グループにわかれて、歌い試す。

- ・3つのグループに分かれて、**B**についてどのように歌うかについて意見交換しながら、歌い試す。
- ・①伴奏・女声 ②伴奏・男声
③カラピアノ
の音源を、ギガタブから選択して歌う。
- ・自分たちの歌声をギガタブで録音する。
- ・録音して聴き、感想を伝え合い、より納得する歌唱表現を求めて、歌い合わせる。

パートリーダー：録画係
音とり係：音源再生係

7 各グループで考えた工夫を、クラス全体で共有する。

- ・「工夫した点」を紹介し、発表する。
- ・意見の多かった歌い方で、学級全体で歌う。
- ・録音する。
- ・録音したものを再生し、最初に録音した音源と聴き比べ、表現がどのように変化したか発表する。 ☆〔テクスチュア〕

8 振り返りカードを記入する。

- ・学習で感じたことや次への課題を、振り返りカードに記入する。

○話し合いに時間をかけすぎず、実際に歌い試す時間を多く取ることができるように声かけをしながらグループごとにまわって指導する。

○ギガタブに音源を7つ用意しておき、どの音源を使って練習をするかを選択することができるようにする。

※ギガタブをオルガンにつなぎ、音量を調整やすくしておく。

○ギガタブを用いて、何度か録音をして客観的に聴き、感想を伝え合うことで、相手に伝わるように表現ができているか、話し合い活動の内容が活かされた歌い方ができているかを考えさせ、自分たちの考える表現に近づけるようにする。

【視点2】

◇「翼をください」の各声部の役割やパートの重なり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。(思考・判断・表現)

＜記述・発言・聴取＞

○録音を聴き、学習前後での表現の違いを感じ取らせることで、他者と合わせて歌うよさや必要性を感じられるようにする。

- ・各声部の役割やパートの重なり方を感じて歌う意味やよさを理解し、歌唱で表している。

○本時の振り返りをさせる。

- ・学習で感じたことや次への課題を、振り返りカードに記入している。

○本時の合唱を、次時の学習にも生かせるように声をかける。